

■評価委員会指摘事項に関する追加回答

・小項目 35

ア 小中学生の美術鑑賞授業の要望に応えレクチャー等を実施する。

Q 市美の評価不能「－」はおかしいのではないかな。何か実施出来たのではないかな。

A 下記のとおり実施しているため、自己評価を「3」として下記の記載としたい。

自己評価：【3】

- ・ 当初計画に基づき天王寺区と連携して「豊臣の美術展」に関して美術鑑賞授業の準備を進め実施予定であったが、コロナ禍の影響による臨時休館により、美術鑑賞授業を実施できなかった。
- ・ 次善の策として、地元の小学校において、「表現」という手法を学ぶ授業に協力することで教育支援を行った。
- ・ 具体的には、美術館で開催した「聖徳太子展」に関連し、プロジェクターで聖徳太子の絵3点を地元の小学校の4年生（50人）を対象に鑑賞してもらい、美術館の職員が絵の背景、鑑賞の仕方など教授した。

・小項目 42

各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定

Q 市美と東陶が計画にないことに違和感がある。

A 委員ご指摘のように、利用者との対話は大事であると考えており、今後は事業評価の際にしっかりと記載して参りたい。

なお、市美は地下展示会室を利用する団体と意見交換を行っている。また、東洋陶磁美術館は小項目41に記載したが、館のボランティアガイドに意見交換会の機会を設け、リニューアル開館後の制度の在り方を議論したり、展示会に関する研修、意見交換を実施している。

ボランティアとの意見交換に関する記載は本来小項目42に記載すべき内容であり、次年度は、適切な箇所に記載し、評価を行う。

このように、市民団体やボランティアとの意見交換・対話は実施しているので、来年度以降はそれらを事業計画の中に盛り込むようにする。